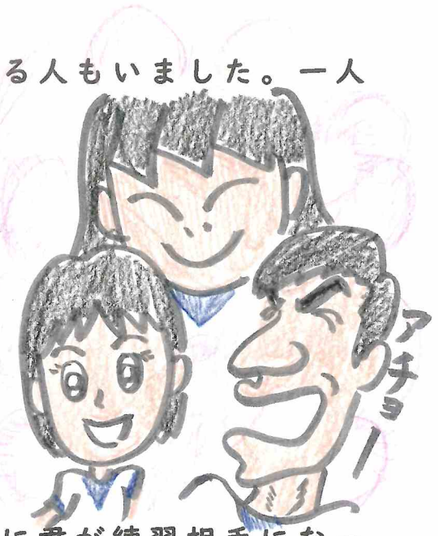
校長先生の初恋物語

第17話　足長君に勝てること

とっくんは、むぼうにも、足長君にこんなことを言ってしまったのです。
「ドッジボールだ。ドッジボールだったら、足長君に勝てるさ。」
そのとっくんの言葉を聞いた、みんながいっせいに大笑いしました。足長君なんか、ころげながら笑っていました。そりゃそうです。マンモス小学校ナンバーＩのスポーツマン。足長君にできない運動は何Ｉつありません。しかも、もっとも得意としていたのがドッジボールです。マンモス小学校で一番ドッジボールがとくいなのは、足長君です。ドッジボールをしたら、足長君のいるチームがかならず勝ちます。足長君がだれかからボールを当てられたのを見たこともありません。さらに、足長君の投げるボールは、プロ野球のピッチャーみたいなスピードボールです。それなのに、とっくんはくやしくて、ついつい言ってしまったのです。言ってしまって、すぐにこうかいしました。「しまった。変なこと言っちゃった。」

そんなことを口にしたとっくんに向かって、足長君が言いました。
「よし、とっくん。ぼくにドッジボールで勝つって言ったな。勝負だ。対決だ。一度言ったことを取り消したりするなよ。逃げたりするなよ。」
こうして、とっくんと足長君のドッジボール対決が決定してしまいました。このニュースはあっという間に学校中に広がりました。だれもとっくんが勝てるなんて思っていません。「足長君に勝てるわけないよ。」「勝負にならないよ。」「きっととっくんは、すぐに当たっちゃうよ。」そんな声が学校中から聞こえてきました。



でも、とっくんのことをおうえんしてくれる人もいました。一人目はもちろんダンプさんです。
「とっくん、負けたら、ダンプのパンチが飛ぶからね。」
きんに君ともあのこっせつ事件のあと、仲良くなっていました。ですから、きんに君も応援してくれました。
「とっくん、がんばるだちょー。」
そしてよしこさんも、なんととっくんの味方をしてくれます。
「とっくん、がんばってね♥」
三人はかんぜんにとっくんの味方です。
ドッジボールたいけつのその日まで、きんに君が練習相手になってくれました。きんに君も、「きんにくもりもりボール」を投げます。足長君にはかなわないとしても、けっこう速いボールです。きんにくもりもりボールをとる練習をして、とっくんは前よりもドッジボールが上手になりました。でも、たったＩ週間ぐらいの練習で足長君においつくなんてもちろんむりな話です。まだまだ実力の差はあるというのに、あっという間に決戦の日はやってきてしまうのです。

昼休み、すなけむりがまう運動場に、足長君が、ドッジボールコートの向こう側に立っていました。そして、とっくんに向かって、こう言いました。
「とっくん、いつものように、すぐに当ててやるよ。とっくんなんか、あっという間に外野行きさ。」
とっくんもいっちょまえに言い返してみました。
「いつものぼくといっしょにするなよ。今日こそ足長君を当ててやるよ。」
足長君は、にやりと笑いました。
いよいよゲームスタート。はたして、とっくんは足長君に勝てるのか。足長君に勝つというきせきが起こせるのか。

つづく

次回予告　とっくんの奇跡